

令和5年7月5日
北陸地方整備局
北陸信越運輸局

新たな北陸圏広域地方計画 「基本的な考え方」を公表します

～2050年さらにその先の長期を見据えつつ、今後概ね10年間の計画～

北陸圏広域地方計画は、平成27年8月に閣議決定された国土形成計画（全国計画）を受け、平成28年3月に策定し、現在までに様々な取組を推進しています。

しかし、その後も人口減少、少子高齢化の加速、巨大災害リスクの切迫、激甚化・頻発化する自然災害、新型コロナウイルス感染症の拡大を契機とした暮らし方・働き方の変化やデジタル化の進展等、国土をめぐる社会経済状況が大きく変化する中で、新たな国土形成計画（全国計画）案が国土審議会で議論され、今年の夏頃の計画策定が予定されています。

北陸圏広域地方計画についても、全国計画の議論を踏まえ、新たな北陸圏広域地方計画策定に向けて、令和4年8月に「北陸圏広域地方計画有識者懇談会」を設置して、様々な分野の有識者から意見を伺いながら、検討を進めてきたところです。

この度、北陸圏広域地方計画協議会において、新たな北陸圏広域地方計画の「基本的な考え方」をとりまとめましたので公表いたします。

今後、本協議会において「新たな北陸圏広域地方計画」の策定に向け、「基本的な考え方」をもとに具体的な施策やプロジェクト等について検討を進めていきます。

※北陸圏は富山県、石川県及び福井県を計画区域としています。

※「基本的な考え方」は、地域の現状と課題を整理し、将来像・目標までをとりまとめたものです。

【公表資料】

1. 新たな北陸圏広域地方計画『基本的な考え方』（概要版）

「基本的な考え方」の本文については、北陸圏広域地方計画のホームページよりご覧頂けます。

<https://www.hrr.mlit.go.jp/tiiki/kokudo/index.html>

※新潟県の計画については、東北圏広域地方計画をご参照ください。

【同時記者発表】

富山県政記者クラブ
石川県政記者クラブ
福井県政記者クラブ
新潟県政記者クラブ
その他専門紙

【問い合わせ先】

北陸地方整備局
（北陸圏広域地方計画推進室）
TEL：025-280-8880（代表）
企画部 事業調整官 松川 武彦（内線3116）
広域計画課長 吉田 健一（内線3211）

<現状と課題>

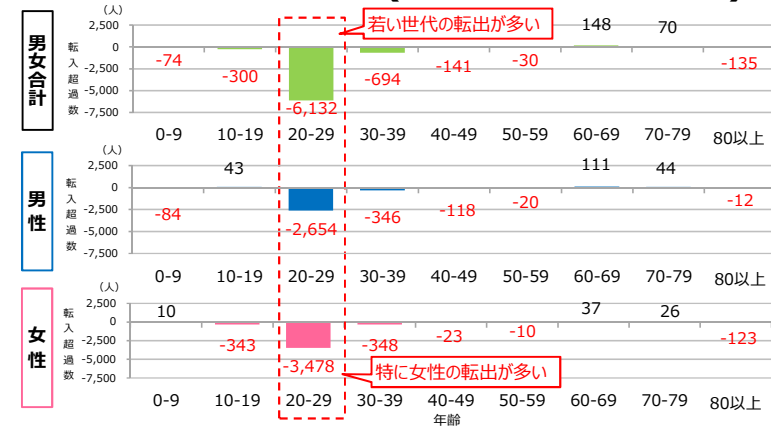
現状

- ・全国平均より進む人口減少・少子高齢化(若者の圏外流出等)
- ・三大都市圏から等距離にある地理的条件の優位性
- ・自然、歴史、食文化等豊富な地域資源 など

課題

- ①多様なニーズに応じた暮らし方・働き方のできる生活環境・雇用環境の形成
- ②多様で個性ある地域の持続的発展
- ③自然災害への対応と自然環境との調和
- ④地理的優位性を活かした産業の強化
- ⑤太平洋側の災害リスクの高まりにともなう本社機能移転等への積極的な対応
- ⑥圏域外の人との多様な関係構築と新しい交流圏の形成

■北陸圏の転入超過数(2022年1月～12月)



※転入超過数は、北陸圏への転入者数と北陸圏からの転出者数の差分(マイナスは転出超過)
データ：住民基本台帳人口移動報告(総務省)

<将来像>

住み心地・居心地よく、多彩な魅力を活かして躍動する北陸

<目標>

【目標1】北陸圏での魅力ある暮らしの実現 ～生活環境・雇用環境の充実と安全・安心かつ環境と調和した地域づくり～

- ①北陸圏の暮らしに磨きをかける新しい暮らし方・働き方の実現、②都市と農山漁村が共生した豊かさを実感できる地域生活圏の実現、③自然災害に強い暮らしの実現、④美しい豊かな自然環境の保全

【目標2】競争力のある産業の育成 ～北陸における経済・生産の一層の活性化～

- ①活力に満ちた農林水産業の形成、②競争力と魅力がある産業の形成・活性化、③価値を生み出す力の向上と新たな需要を取り込む地域産業の活性化

【目標3】日本海側の中枢圏域の形成 ～日本海側圏域及び太平洋側圏域との連携強化～

- ①北陸圏の社会経済活動を支える信頼性の高いネットワークの形成

【目標4】交流・関係人口の創出 ～北陸の魅力を活かした国内外との交流・関係の創出～

- ①北陸圏の魅力を活かした観光の活性化、②三大都市圏等との新たな交流、③様々な人とつながる北陸圏